

かさまのれきし

第59回



小原神社と周辺の歴史探訪

小原神社は、小原地区のほぼ中央、古宿に鎮座しています。創建は永徳元年（二三八二年）で、神主富田道生（道正）が鹿島の神を奉迎して鎮守の神とし、高淤加美神社と尊称しました。祭神は、高竈神・閻竈神・建速素戔嗚尊です。高竈・閻竈の神は雨を司る龍神で、小原神社の別名を八龍神ともいいました。

神明鳥居をくぐると、千鳥破風のトタン葺きの拝殿が建っています。拝殿前に獅子を象った狛犬が配置され、その前に昭和十年寄進の石灯笼と天水桶があります。境内には笠間敬神講碑と小原神社敬神講碑がたっています。笠間敬神講碑には、北川根村・宍戸町・南山内村・本戸・南友部などの人名が刻まれ、近隣の町村の崇敬を集めていました。

鎮守の森には、市の天然記念物に指定されているケヤキ一号から三号（四号は枯損により伐採）、御神木であるスギの巨樹が聳えています。ケヤキ（第二号）は、目通り幹周りが八・一メートル、樹高は約四十メートルの大木です。スギは、幹周りが五メートル、樹高は約三十八メートルです。神社が創建された頃からの樹木でしょう。

神社の東方一带には、縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の遺跡が広がっています。特に、小原地区の県営畑地帯整備に伴う発掘調査では、弥生時代の大規模な集落跡が発見されています。また、諏訪古墳・一本松古墳・山王



ケヤキ(第2号)

塚古墳（いずれも市指定史跡）があり、奈良時代には茨城郡の郡家（律令制下における郡の役所）が置かれ、「茨城」の県名の発祥地とされています。

神社の西側には、曹洞宗の廣慶寺・小原城跡・銘酒「郷乃誉」の醸造元須藤本家などがあります。廣慶寺墓地は、高寺古墳群に属し、二号墳は市指定史跡で、その出土物（市立歴史民俗資料館に展示）も市指定文化財となっています。また、小原城本丸跡（市指定史跡）は、戦国時代の里見氏の城館で、廣慶寺墓地には里見氏の墓もあります。里見氏は、手綱郷（高萩市）の豪族で、『南総里見八犬伝』で知られる房総の里見氏と同族です。

小原神社を中心とする地域は文化財が多いところですが、小原の里の歴史を探訪してみたいかがでしょうか。

（市史研究員 南秀利）